

1 単元（題材）名 決算

2 本単元（題材）の目標

- (1) 決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けること。
(知識及び技術)
- (2) 決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応すること。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組むこと。
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元（題材）の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
決算について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	決算の方法と妥当性と実務における課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対策を考案している。	決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

4 単元について

(1) 教材（題材）観

本単元は、決算整理、8桁精算表、帳簿決算など決算手続き全体の流れを学習する単元である。決算整理（売上原価の計算、貸し倒れの見積もり、減価償却の定額法・直接法）の意味と記帳方法を習得し、8桁精算表、財務諸表の作成ができるようになることを目標とする。

(2) 生徒観

授業中の雰囲気は、非常に静かで和やかである。発問に対してはしっかりと答え、答えが見い出せない生徒には、周囲が手助けをする行動が見受けられる。1学期が過ぎ、仕訳や記帳に苦手意識をもつ生徒も出てきている。適宜声掛けを行い、学習状況を把握しながら、意欲的に取り組む意識をもたせている。

本単元では、決算整理、整理仕訳の必要性について思考し、財務諸表を活用して企業の状況について判断し、決算結果を財務諸表に明瞭に表現できる能力を身に付けることを目標とする。

(3) 指導観

指導にあたっては生徒の実態を踏まえ、ICT活用とグループ学習の場の設定により、クラスの仲間同士のコミュニケーションを図る活動の場面を通し、思考力、判断力、表現力等を育てる。また、ICT活用において協働する機会を設けることで、本単元に関する帳簿作成、整理仕訳の知識・技術の確実な定着を図りたい。

5 単元（題材）の指導計画（12時間扱い）○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知技	思	態	評価方法・留意点等
1	1	課題 3分法による商品売買に関する勘定の振替について理解しよう。 決算整理仕訳の学習 ○3分法による商品売買に関する勘定の整理 ・問題集、スプレッドシートを活用し、問題を解いていく。 まとめ 3分法による商品売買に関する勘定の振替について理解できる。	◎	○	○	知：商品に関する勘定の決算整理を理解できているか見取り、理解していない生徒には個別に対応する。【問題集・スプレッドシート課題】 ※3分法の【繰越商品】の扱いに注意する。 思：3分法と分記法の特徴を踏まえて決算整理の手法を適切に判断しようとしている。【観察】 ○ 態：期首期末の残高を適正に見分けて仕訳ができている。理解していない生徒は一緒に確認する。【問題集・スプレッドシート課題】
	2	課題 貸し倒れの見積もりに関する計算と振替について理解しよう。 決算整理仕訳の学習 ○貸し倒れの見積もりの計算 ・問題集、スプレッドシートを活用し、問題を解いていく。 まとめ 貸し倒れの見積もりに関する計算と振替について理解することができる。	◎	○	○	知：貸倒れ見積もりの決算整理を理解できているか見取り、理解していない生徒には個別に対応する。【問題集・スプレッドシート課題】 ※元帳勘定残高【貸倒引当金】に注意する。 思：決算日になぜ貸し倒れを見積もるのかを考えて、決算整理の手法を適切に判断しようとしている。【観察】 ○ 態：貸倒引当金の残高を適正に見分けて仕訳しようとしている。できていない生徒は一緒に確認する。【問題集・スプレッドシート課題】

1	3	課題 減価償却の処理法と振替について理解しよう。 決算整理仕訳の学習 ○減価償却の処理法 ・問題集、スプレッドシートを活用し、問題を解いていく。 まとめ 減価償却の処理法と振替について理解できる。	◎			知：減価償却の処理方法を理解できているか見取り、理解していない生徒には個別に対応する。 【問題集・スプレッドシート課題】 ○ 思：固定資産の減価償却をなぜ行うのか思考し、決算整理の手法を適切に判断しようとしている。 【問題集、スプレッドシート課題】 ○ 態：直接法による仕訳をしようとしている。できていない生徒は一緒に確認する。 【問題集・スプレッドシート課題】
2	1	課題 8桁精算表の意味・作り方を理解し、作成方法を習得しよう。 ○8桁精算表の作成 ・問題集を使用し、生徒に発問しながら問題を解いていく。 ※決算整理仕訳を正しく行う必要性を再度確認し、作成手順に従って一つ一つ記帳していく。 まとめ 8桁精算表の意味・作り方を理解し、作成方法を習得できる。	○			知：整理仕訳を正しく行い、8桁精算表の作成方法が理解できている。追いついていない生徒へは個別に対応する。 【ワークシート、問題集】 ○ 思：6桁精算表との作成方法の違いについて思考している。 【ワークシート、問題集】 ◎ 態：作成方法に基づいて、自ら考えて問題を解こうとしている。 【ワークシート、問題集】

2	2 本 時	問題（課題） 8桁精算表の意味・作り方を理解し、作成方法を習得しよう。 ○8桁精算表の作成 ・スプレッドシートを活用し、グループで共有しながら作成していく。（前時の復習を含む） 活動①：3～4人のグループとなり、クラスルームの共有ファイルを開く。 活動②：グループごとにスプレッドシートを共有し、決算整理事項の仕訳、8桁精算表作成のため入力を行う。その際、グループ内で役割分担を行い全員で完成させる意識を持つ。 活動③：クラスルームに質問を投稿し、当期純利益の金額を解答する。 活動④：各グループのファイルをクラスで確認しながら、振り返りの時間とする。 まとめ（結論） 8桁精算表の意味・作り方を理解し、作成方法を習得できる。	◎			知：整理仕訳を正しく行い、8桁精算表の作成方法が理解できている。追いついていない生徒へは個別に対応する。【観察】 ○ 思：6桁精算表との作成方法の違いについて思考している。【観察】 ○ 態：話し合い活動に積極的に参加しようとしている。参加していない生徒や学習が進んでいないグループを見取り、つまづいている点について説明を加える。 【スプレッドシート課題、観察】
---	-------------	--	---	--	--	--

2	3 4	問題（課題） 8桁精算表の意味・作り方を理解し、作成方法を習得することができるか。 ○8桁精算表の作成 ・問題集、スプレッドシートを使用し、問題を解いていく。 ・グループに分かれて、役割分担を行い、8桁精算表の作成に取り組む。 ・貸借対照表、損益計算書の作成の基礎資料となり、帳簿決算の正確さを期するための基礎となることを理解する。 まとめ（結論） 8桁精算表の意味・作り方を理解し、作成方法を習得することができる。	◎			知：整理仕訳を正しく行い、8桁精算表の作成方法が理解できている。追いついていない生徒へは個別に対応する。【問題集、スプレッドシート課題】 思：6桁精算表との作成方法の違いについて思考している。【問題集、スプレッドシート課題】 ○ 態：話し合い活動に積極的に参加しようとしている。参加していない生徒や学習が進んでいないグループを見取り、つまづいている点について説明を加える。 【観察】
3	1 2 3 4 5	問題（課題） 帳簿決算の意味とその必要性を理解する。 ○帳簿決算 ・記帳練習を重点的に行い、正しく丁寧に記帳することを習慣づける。 ・決算記入では、整理仕訳から転記、振替仕訳から転記といった帳簿決算の記帳の流れを正しく理解する。 ○財務諸表の作成 ・損益計算書では、仕入や売上の言葉が変わることや損益勘定の扱いなどに注意して作成を行う。	○			知：帳簿決算の記帳の流れを正しく理解している。理解していない生徒は再度説明を行う。【問題集】 ・売上原価や売上高といった言葉を使って作成できているかを確認し、できていない生徒には正しく作成する手助けを行う。 ○ 思①：決算整理を含んだ帳簿決算について、一定の方法に従って会計処理するため思考をしている。【問題集】

	・貸借対照表では、貸倒引当金・繰越商品・資本金の扱いに注意して作成を行う。			◎	態：問題集の例題を解き、それぞれの記帳・財務諸表の作成をしようとしている。発問を行いクラス全体で答えを確認し、できない生徒も一緒に確認する。 【問題集・観察】
	まとめ（結論） 帳簿決算の意味とその必要性について理解することができる。				